

	<p>2011年1月15日 第82号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

バッタ広場の野草

バッタ広場の植物を毎年調べています。バッタ広場の南北33mに糸を張り、1m区間ごとに糸上にある植物を記録しています(2002年10月と2010年7月・10月の結果は次頁表の通りです)。

丈の高い草木の下の日陰に生えている植物や、芽生えたばかりの植物があったりして、何層にも重なって生えているのをかき分け、かき分け記録します。植物の種類で見ると、2010年7月は34種、10月は37種になります。みんなありふれた植物です。が、33mの糸の上に、これだけの種類の植物があるのはにぎやかです。私達がせっせと刈り取ったあとに出来た空間に、私達が種をまかないのに、鳥や風に運ばれて来たか、土の中に埋もれていた種が芽を出すのか、湧いてくるように次々と生えてきます。

2002年にはチガヤの白い穂がきれいでしたが、なぜか消えてしまいました。ヒナノウスツボという



見慣れない花が二株咲きましたが、すぐに消えてしまいました。ミズヒキは3年前に出現して急に増えました。ヌスビトハギは一株見つけ釣り巻さんに踏まないのでと言われていましたが、気がついたらあちこちに生えてきました。植物は私達の駆除作戦や期待に関係なく出てきたり、増えたり、消えたりして移り変わっていきます。

写真左 2010年10月

バッタ広場の植物(バッタ広場南北33.5mに糸を張り、1mごとに糸にかかる植物名を記録、
樹木は、ライン上の本数、その他は出現した区間数、太字は外来種・園芸種)。

2002/10/27	2010/7/10	2010/10/11
種名(樹木:本数、他:頻度)	種名(樹木:本数、他:頻度)	種名(樹木:本数、他:頻度)
エノキ 75	エノキ 19	エノキ 15
アカメガシワ 8	ヌルデ 3	クヌギ 2
ケヤキ 2	コナラ 2	コナラ 2
樹木本数	ケヤキ 2	ケヤキ 1
		ヌルデ 1
樹木合計本数 85	樹木合計本数 26	樹木合計本数 21
	ツタ 1	
	常緑ツタ 4	常緑ツタ 4
アズマネザサ 2	アズマネザサ 8	アズマネザサ 10
イノコズチ 22	イノコズチ 24	イノコズチ 18
ヘビイチゴ 10	ヘクソカズラ 15	ヘクソカズラ 15
キク科*1 7	ハエドクソウ 11	ガガイモ 11
カタバミ 6	セイトカアワダチソウ 10	クズ 9
チドメグサ 3	キク科*2 10	ヒメムカシヨモギ 9
コセンダングサ 3	キク科*1 6	コセンダングサ 7
イヌタデ 3	ガガイモ 5	キク科(ロゼット) 5
クズ 3	ヘビイチゴ 5	エノキグサ 4
コナスビ 2	コセンダングサ 4	チドメグサ 3
セイトカアワダチソウ 2	ヨウシュヤマゴボウ 4	ミズヒキ 3
セイヨウタンポポ 2	クズ 4	イヌタデ 3
ヘクソカズラ 2	チドメグサ 4	カタバミ 2
エゾノタチカタバミ 1	ヤブジラミ 4	アキノノゲシ 2
ギシギシ sp 1	ヌスビトハギ 3	ヘビイチゴ 2
ハナタデ 1	ブタクサ 2	ハコベ 2
ヨウシュヤマゴボウ 1	ツユクサ 3	オオバコ 1
アカザ 1	アキノノゲシ 2	ハナタデ 1
	ハコベ 1	アカザ 1
チカラシバ 14	オオバコ 1	ハエドクソウ 1
ヒメクグ 8	カタバミ 1	コナスビ 1
メヒシバ 8		ツユクサ 1
チガヤ 3	チカラシバ 20	ヌスビトハギ 1
カモジグサsp 2	カモジグサ 19	
カゼクサ 1	チチミザサ 7	チカラシバ 23
	ヒメクグ 4	チチミザサ 8
	クサイ 2	ヒメクグ 5
	オヒシバ 1	カゼクサ 2
		オヒシバ 1
		メヒシバ 1
		イネ科 2

注) 2002年10月調査: 2000年1月バッタ広場が出来てから、観察会のみ実施し、植物を刈ったり抜いたりしなかった時期

2010年7月・10月調査: 2003年から不定期に草地管理を行い、2008年以降2回/月の割合で草地管理をより徹底させた。樹木、クズ、ネザサ、セイタカアワダチソウ・ブタクサ、ヨウショヤマゴボウ等除去(2010年は公園管理所で利用するため樹木の伐採行っていない)

キク科*1: ハルジオンまたはヒメジオン、

キク科*2: ヒメムカシヨモギまたはオオアレチノギク

2002年バッタ広場が出来て間もない頃、すべての植物がヨーイドンで成長競争を始め、調査ラインの33mの系の上には、75本のエノキがありました。75本には2m近い木から20cm程の芽生えまで含まれますが、バッタ広場一面にエノキが生えていると思えるほどで、全体で1000本位あったかもしれません。

2010年10月では、木は21本、うちエノキは15本で、本数で見ると2002年の1/5です。多くは切っても切り株から出てくるひこばえで、成長してボリュームがあります。今もバッタ広場にエノキの種が沢山落ちてきますが、草木が生い茂った状態では、芽生えても大きくなるのはむずかしいようです。



左は2003年5月。2003年4月に増えてきた樹木のうち1m以上のものを切って1ヶ月後さらに増えた一面のエノキにびっくり仰天(写真ではわかりにくい、手前のオギ以外はほとんどがエノキの若木)。

右は2010年7月。毎年エノキは切っているが、生き残る(2010年は切っていない)

周囲の樹林地に生えているアズマネザサは少しずつ広場に侵入、2002年の2区間から、2010年10月には10区間で出現しています。常時刈り取っているにもかかわらず、定点(ライン)で見れば全33区間の1/3にまでササが侵入したことになります。

公園はいつも同じですが、バッタ広場では生えてくるものも草丈(樹高)も変化し、それにつれて、すみつく生き物もいろいろ変わり、元に戻ることはないのがおもしろいと思います。2000年からはじまったバッタ広場も11年が経ちました。自然の時間から見れば、ほんの一瞬ですが。

通りがかりの方に声をかけられました。「ボランティアでわざわざ手入れをしているのですか。放っておいたらこうなりませんね。いいですねえ。私は田舎の自然を思い出してなつかしいですよ。」と。バッタ広場には様々な見方や考え方がありますね(坂本 郁子)。

バッタ広場についての思い

城址の一部に草を刈らず自然の草原を保ち、昆虫などが生られる場所をバッタ広場と称して管理し、虫ばかりでなくどんな草木が生えているかも調査してきた。開設以来11年経ち、当初とは生態が変わってきたように感じている。問題に思っている事もあり、今後の運用に対するご参考までに思いを纏めてみた。

まず虫については飛来する蝶やトンボなど飛翔力のある昆虫は、広場の植生によってあまり変りはないであろう。温暖化で暖地系のツマグロヒョウモンの飛翔やアカボシゴマダラ(蝶)が繁殖したりしているのが見られる。遠くまで飛べないカマキリやバッタ類は減ったようだ。これは狭い広場に入る人の数が多くて採集されてしまう事が大きな要因ではなかろうか。

そこで対策として考えられるのは、光が丘でも採用している一部区画を立ち入り禁止とすることだ。中央に全体の2分の1位の面積をロープで囲んで、オギなどの草を生やし立ち入り禁止の札を立てて保護するのはどうだろう。また、捕まえた昆虫は観察した後で広場に戻す事を立て札で呼びかけるのも一法であろう。個人的には広場で出会った子ども等にそう話しかけているが、効果は疑問だ。また、いなくなってしまった昆虫を荒川の河川敷から捕まえてきて放すことも考えられ、昆虫好きの子ども達に歓迎されるかも知れない。

次に植物だが、草では種を綿毛で飛ばすセイタカアワダソウやアキノノゲシ等が増えたが、当初生えていたイネ科の草が減ってきたようだ。オギやガガイモも飛来したようだが元気だ。地中を這って進入するササには手を焼いているが、刈るだけで根を掘り取らないと文字通り根絶は無理のようだ。クズは繁殖力が旺盛で他の草を覆ってしまうヤブガラシと同様な蔓草だが、除去を始めて一夏でほぼ目的を果たしたようだが、1節を残すと繁殖するので未だ僅かに生えてくる。



2010年2月

種が飛来するのは樹木にも多く、周りに生えているイヌシデが主であるが、野鳥の排泄物からの実生があり、エノキやクヌギなどは隣接する林の高木から直接落下する実から生えるものが非常に多い。

はじめの頃は、これも自然現象だとして実生木を放置し、その後内側は丈を低く刈り取ったが広場の外縁だけはやや放置している。内部の切り株は外来種の草を取るのに邪魔になっている。

ここの実生の木は赤塚公園内の圃場で育て他に植えて活用するので、近いうちに撤去する予定がある。撤去作業時には出来るだけ多くの笹の根を除去出来ると好都合なので、移植ゴテではなくスコップを使用して、広く深く掘り起こして頂けるとありがたい。

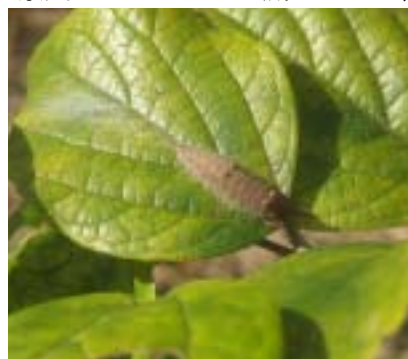
広場の中の樹木を一旦除去し、跡から芽生える実生も見つけ次第引き抜くことで、草場が維持できるのではないだろうか。それにしてもササの除去には手がかかるので、月例の作業日に大勢の皆さんが参加してくださるようお願いしたい。(猪鼻昭二)

バッタ広場はおもしろい

バッタ広場は、私にとっては子供の頃の横浜郊外に遊んだ広い原っぱの次に馴染み深い原っぱです。赤塚城跡のてっぺんにある狭い空間ですが、バッタ広場が出来て10年通った原っぱです。原っぱから見上げると周りを木で囲まれて空が丸く見えます、季節ごとに若葉、濃い緑とセミの鳴き声、紅葉、冬枯れ、季節の移り変わりはとても楽しく、ほっとする風景です。

続けて見えていますから、エノキの実生が多く発生し、太陽が遮られないのでエノキは良く育つことや、エノキの葉を食べるゴマダラチョウの幼虫を見ることが出来ます。ガガイモの実が風に乘って飛ぶ美しさに感動もします。三年程前まではクズが繁茂していてクズを減らしたら、アズマネザサが勢力を揮い、ここ1、2年はセイタカアワダチソウを抜いたり、ササ刈りが中心の作業になっています、ササの根は硬くてのこぎり状の刃がついている鎌で切っていましたが、結構力がある仕事で手首が痛くなりなり、ひざ、腰まで痛くなり、たいした事をしているわけでもないのに結構大変です。

残したり減らしたり何を基準に作業しているのか、時々分からなくなる時がありますがバッタ広場は昔懐かしい原っぱであり、赤塚公園は都内に残された貴重な場所、がんばって関わってゆきたいと思っています(瀬田政江)



エノキの葉にいたゴマダラチョウの幼虫も12月18日にはほとんどいなくなった。木から降りて、枯れ葉の下で越冬する。

これからのバッタ広場

正直、これまでにバッタ広場をどうするのが望ましいか、考えたことがないので、いささかとまどっています。せっかく貸与されている広場なので、より有意義なエリアにしたいとは考えますが、それを具体的な意見としてとなると考えこんでしまうのが現実です。

しかし、広場の名のとおり、あそこに行けば種類はともかく数匹のバッタには必ず遭遇できるような広場にできないものかとは以前から思っていました。その為の環境をどうすればいいのか、

私には全く理解できていません。また広場の面積的なことを考えると、そんなこと所詮無理だとも想像できますが、広場の名前の所以を納得できる、そんなエリアにできないものかと思っています。

また、広場の周辺が遊戯的な区域になっているので、子供たちが虫取りに広場の中に踏み込んだ場合の事故を最小限に抑えるためにも、ある程度の野草の刈り取りはこれからも必要不可欠と考えます。資金・人力共大きく期待できない現状ではこのことが問題になるのかと思いますが、極力都合しあって現状の活動を続けるべきと考えています。

広場を立ち上げた時の本来の目的、できるだけ人力をいれないエリアが自然にどう変移してゆかかの観察できる広場とした、広場の名前にこだわったバツタに遭遇できる広場として、これがあの広場に期待する姿です(田中 正安)。

猛暑の置き土産？ 師走の青虫

12月20日頃の一夜、大風雨が吹き荒れた。翌朝、庭のクチナシの木の下に置いてある自転車の籠に赤ん坊の小指ほどもある青虫が落ちていた。生きているかどうかわからなかったがティッシュを敷いた容器に青虫とクチナシの葉を入れ、木の下に置いた。横たわっていた青虫が、翌朝はお尻の角(つ)を立てて這う格好をしていたので生きていることが分かり、濡らしたティッシュを容器の端に置いた。22日~24日は暖かな日が続きお尻の角を立てて這っていたが、全然動かずクチナシの葉も食べなかった。クリスマス寒波が来ると報道された24日夕方から急に寒さが厳しくなり、25日の朝は庭の水道栓が凍った。青虫は前日、木の下から屋根のある植木棚に移しておいたが、その朝は横たわっていて体の張りも無くなり凍死してしまったようである。

このクチナシの木は40年程前に切花で買ったものを庭に挿しておいた中の1本が根付き、根元は直径10cm位になって枝を広げ、毎年梅雨期には沢山の花を咲かせている。青虫はクチナシの蕾が脹らむ頃から活動を始め旺盛な食欲のため若葉や蕾は大きな食害を被るので、以前は見つけると捕まえていた。

クチナシの木は家の南側に植えてあり、家の北側は区の小さな公園になっていてツツジが植えてあるが、傾斜地なので造園業者が手入れに来るだけで散策する人は見たことがない。そこで捕まえた青虫はクチナシの枝葉と一緒にこの公園に置き去りにして庭のクチナシを護るというエゴな行動をとっていた。

しかし10年ほど前から老眼鏡をかけても青虫を見つけることが困難になり捕まえるのは止めてしまったが、青虫の大・小の糞が地面に一ぱい落ちるので元気に育っていることは想像できた。

ところが去年は6~7月にクチナシは沢山咲いたが、青虫の糞は全く落ちてこず一昨年も花は沢山咲いたが糞が少なかったことを思い出した。花季が終わった7月下旬、伸び放題の枝を例年通りバサバサと切り落とし、9月初旬にもう一度切り詰めた。10月頃、木の下に青虫の糞が落ちるようになったのでクチナシの枝を見ると刈り込んだ後に出た新芽は葉が食べ尽くされて細い棒のようになっていた。

昨年の夏は国内の熱中症の死者千人と報じられていたが、青虫も猛暑に耐えられず、涼しくなるのを待っていたのだろうか。一時は沢山の糞が落ちていたが、徐々に少なくなり、青虫もいなくなったと思っていたのに、12月下旬まで生きていたのを見て本当にびっくりした。

1月11日、坂本さんから連絡をいただき青虫の話をしたところ、それを書くことになった。青虫の亡骸は容器に入れてあるが、死後20日近く経ち緑色だった体は少し黒ずんで縮んできた



(写真左)。山椒の葉を食べる虫(幼虫は小鳥の糞のような形)やユキヤナギにたくさんついたアリマキなども昨年は姿を見せず、我が家の狭い庭にも地球温暖化の影響が現れていることを痛感させられる。近くにあった雑木林も切り払われて駐車場になり、以前は四季それぞれに耳を傾けた小鳥の声も聞かれなくなってしまった(泉 貞代)。

オオスカシバと温暖化 12月20日頃にオオスカシバの生きている幼虫が見つかったとの泉さんの話、温暖化が原因

なのは間違いない。通常は晩秋には土中に潜り蛹となり冬を越す虫である。本種は南方系の虫で、東南アジアから関東まで分布し東北地方では見られない。食草のクチナシも伊豆半島南部以南の沿海部に自然分布する。東京には昔は無かった植物なのでオオスカシバも当然いなかった。本種が東京で見られるようになったのは19世紀以後のようである。1810年代に成立した栗本丹洲の図譜に本種が正確に描かれている。1830年代の毛利梅園の図譜にも本種の幼虫が描かれている。丹洲も蛹殻と羽化直後らしき姿を描き、希な種と述べている。18世紀に較べれば暖かくなったとはいえ、現在に較べればはるかに寒かった頃の江戸市中に本種は棲んでいたのである。クチナシは江戸時代には花木として栽培され、八重の品種も産み出されている。16世紀以前にもクチナシの記述はあるが、全て染料としてのもので、花、香について書かれたものはない。沿海部に細々と生きる植物で、京、大阪の人達はクチナシの花は知らなかったと推測される。オオスカシバもクチナシが園芸植物となった江戸時代以降に分布を広げた昆虫なのであろう。本種が江戸の町に住み着いたのは温暖化と直接の関係はない。ただし幼虫が12月に見つかった(発生回数の増加?)のは温暖化が原因であろう。(釣巻岳人)

今年も「環境なんでも見本市」に出展します

日時:2月5日(土)、6日(日) 10:00~16:00

場所:エコポリスセンター

いたばし水と緑の会のコーナーでは

会の活動の紹介と、赤塚公園の生き物をパネル展示します。

また顕微鏡を使って「自然の不思議」をのぞいてみます。

赤塚公園やバッタ広場にある冬芽とか、ガガイモの種とか、毛の生えた葉とか、くつつき虫(種)とか、おもしろそうなものを持ち込んで見てみましょう。昆虫調査をしたときの小さなコガネムシも、顕微鏡で見ると恐竜みたいで迫力があります。ぜひ来て下さい。

活動・観察記録(9月~10月)

11月20日(土) 快晴で暖かい。

バッタ広場ササ刈、セイタカアワダチソウ抜きとり。ササは刈り取ったあとにもう緑になっている。ツチイナゴ、オオカマキリ、クビキリ、イナゴ、オンブバッタ、ナシケンモン幼虫、アカボシゴマダラ幼虫、コマダラチョウ幼虫、アオマツムシ

11月27日(土) 快晴

バッタ広場ササ刈、セイタカアワダチソウ抜き取り

イナゴ、ゴマダラチョウ幼虫(4)、ハラビロカマキリ、キチョウ、ツマグロヒョウモン、アオオサムシ

12月18日(土) 快晴

バッタ広場ササ刈、セイタカアワダチソウ抜き取り、カメムシ(土の中で越冬)、エノキの枝に残るゴマダラチョウは1匹のみ。

活動のお知らせ

運営委員会は原則として第4土曜日の作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラーメン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。どなたでもお気軽にご参加ください。午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。わからないときは、坂本(090-4618-1295)に御連絡下さい。

1月運営委員会： 1月22日(土) 12:30~13:30

2月運営委員会 2月26日(土) 12:30~13:30

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：3月19日(土) 12:30~

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

活動の問い合わせは事務局瀬田(3969-7124)まで

会では赤塚城址周辺で、私たちが作ったピオトープを中心に自然の変化を観察し、ゴミ拾いや、ピオトープの環境整備を行っています。観察会は原則として雨天も実施します。

赤塚の活動は原則として毎月第3、第4土曜日です。軍手、タオルなど、汚れてもよい服装で。カメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑もあるとよい。

雨の場合は作業のかわりに全体の観察とゴミ拾い。

1月22日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

2月19日(土) 10:00~12:00 湧水水路の点検と清掃

2月26日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

3月19日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

樹林地調査

2月、3月は他の行事と重複するので休みます。

環境なんでも見本市

日時：2月5日(土)、6日(日) 10:00~16:00

会場：エコポリスセンター

梅まつり

日時：3月5日(土)、6日(日) 11:00~15:00

トンボ池の前で展示と工作をします。

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)

いたばし水と緑の会の活動はすべて会員の会費によってまかなわれています。主な使途は、会報郵送料、印刷費、ピオトープ維持管理のための資材費、コピー代などです。